

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070502739		
法人名	医療法人社団 天翠会		
事業所名	高野みどりの里 グループホーム高野		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区高野5丁目11番1号 (電話) 093 - 451 - 3611		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月25日	評価確定日	平成22年1月9日

## 【情報提供票より】(平成21年10月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日(西棟)	平成18年3月1日(東棟)
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2階建ての	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000・45,000・50,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 15,000円
敷金	100,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,333 円	

### (4) 利用者の概要 (10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.9 歳	最低 72 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松井病院・徳原クリニック・小倉蒲生病院・八木医院・田中歯科医院・長行中島医院
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長閑な田園風景が広がる中にグループホーム「高野」は位置しており、鉄筋コンクリート造りの1階にはデイサービス、2階がグループホームとなり、重厚な瓦葺の屋根が印象的である。広い敷地を有し、地域住民やボランティアの方々の協力を得ながら取り組んできた畑づくり(高野農園)の成果により、季節の野菜の収穫を楽しみながら、食卓を飾る事も増えている。地域との積極的な交流を働きかけており、ホーム行事(高野夏祭り)への参加案内に町内1件1件を訪問し、多くの方々の参加へとつながっている。またその際に、相談を受けることもあり、地域における福祉拠点としての取り組みが始まっている。管理者・職員は、日々の暮らしが入居者本位の「その方らしい」ものとなるよう、個別ケアを重視しており、入居者の方々の豊かな表情からも、その取り組みを窺い知る事が出来る。今後は、本人・家族・地域住民・行政・ボランティアの方々や、同業者ネットワークとの更なる連携を構築しながら、地域全体のサービスの向上に取り組む意向があり、展開が楽しみとなる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での指摘事項として、家族が安心して意見や要望を表出できるよう、家族会結成への提案がなされており、働きかけの成果として、来年早々にも家族会が発足する予定となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価作成にあたっては、職員全員が分担して取り組んでいる。「高野の特徴は何か」「アピールしていくこと」等について、職員間での話し合いを行い、確認する機会となった。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホームの状況・行事予定や内容・研修等について、報告や意見交換が行なわれている。外部評価結果の報告や家族会の設立、ホームでの調理開始等について活発な意見交換が行われており、有意義な開催となっている。入居者の方々やかかりつけ医の参加もあり、レクリエーション担当者等、職員も参加して直接報告する事で、多面的な効果を発揮している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	昨年の指摘事項として、家族が安心して意見や要望を表出できるよう、家族会結成への提案がなされており、働きかけの成果として、来年早々にも家族会が発足する予定となっている。意見箱を設置し、また毎月連絡表を送付することで、積極的に意見を聴いている。意見や苦情を大切に、サービスの質の確保に取り組もうとする、意識の高さが伝わる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しており、敬老会・納涼祭・学童クラブへ参加し、交流を深めている。ホームの畑(高野農園)も、地域住民・ボランティアの方々の協力に支えられて、充実をみせる。また近隣農家の方が収穫物の差し入れに立ち寄ってくれる事も多く、ホームからは入居者の手作り作品をプレゼントしている。地域における福祉拠点としての活動にも取り組んでおり、小学生の福祉体験授業や認知症サポート講座等、積極的な活動を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「安心して、楽しく生活できるグループホームを目指します」という理念の基に、5項目の基本方針を掲げている。その中には「地域との連携を深め、防災活動と安全管理に努めます。」と具体的に示されており、地域密着型サービスとしての意義をふまえた、独自の内容となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	季刊誌である「高野みどりの里新聞」には、理念と基本方針を常に掲載しており、地域や関係者への配布を行い、共有・浸透を図っている。理念を目に付きやすい場所に掲示し、毎朝の申し送り時に全員で唱和している。管理者・職員は、日々の暮らしの中で、理念・方針を念頭においた自立支援に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入しており、敬老会・納涼祭・学童クラブへ参加し、交流を深めている。ホームの畑(高野農園)も、地域住民・ボランティアの方々の協力で支えられて、立派な作物を収穫できるまでになっている。また近隣農家の方が収穫物の差し入れに立ち寄ってくれる事も多く、ホームからは入居者の手作り作品をプレゼントしている。		地域の小学校の福祉体験授業のサポートや、町内清掃活動にも参加している。ホーム行事への参加案内に、事務長・職員が町内1件1件を訪問し、多くの方々の参加へとつながっている。またその際に、相談を受けることもあり、地域における福祉拠点としての取り組みが始まっている。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	昨年の外部評価で提案のあった家族との関わりについて、前向きな取り組みの成果として、来年早々にも家族会が発足することとなっている。今回の自己評価作成にあたっては、職員全員が分担して取り組んでいる。		「高野の特徴は何か」「アピールしていくこと」等について、職員間での話し合いを行い、確認する機会となった。評価の機会を効果的に活用し、サービスの向上につなげている。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	ホームの状況・行事予定や内容・研修等について、報告や意見交換が行なわれている。外部評価結果の報告や家族会の設立、ホームでの調理開始等について活発な意見交換が行われており、有意義な開催となっている。入居者の方々や、かかりつけ医の参加もある。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム 高野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	毎月1回、介護相談員の受け入れを行なっている。地域包括支援センターとの連携が主体となり、季刊誌を配布し、情報交換を行なっている。レクリエーション担当職員とボランティアセンターとの連携や、社会福祉協議会との協力関係が構築されている。今後も更に連携を深めていきたいとの意向がある。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、その支援の過程の中で、職員は意識を高めている。人権研修の中で、制度についても学ぶ機会を持ち、また家族への情報発信も積極的に行なわれている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	季刊にて発行される「高野みどりの里新聞」では、理念や行事予定、写真とともに掲載される暮らしの様子や行事報告が紹介されており、完成度の高さを見せる。個別には介護報告書として、担当職員により、健康状態・暮らしの様子・金銭管理等について、詳細な報告がなされている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	昨年の指摘事項として、家族が安心して意見や要望を表出できるよう、家族会結成への提案がなされており、働きかけの成果として、来年早々にも家族会が発足する予定となっている。意見箱を設置し、また毎月連絡表を送付することで、積極的に意見を聴いている。意見や苦情を大切に、サービスの質の確保に取り組もうとする、意識の高さが伝わる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	離職が少なく、働きやすい職場環境づくりの成果とも思われる。異動については、殆ど行われていないが(以前、評価において指摘事項であった)、ユニット間での交流・馴染みの関係づくりを行いながら、活性化のためにも今後の検討課題としている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。介護や高齢者に対する姿勢を、重要視している。職員の離職が殆どなく、働きやすい職場環境づくりの成果とも思われる。共用空間の装飾、写真・手芸等、個々の得意技を活かす場面がある。半数以上が介護福祉士の資格を取得しており、法人として、また事業所としての支援・啓発体制が充実している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム 高野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	行政やグループホーム協議会の研修参加を促している。今年度は同法人のデイサービスと合同で外部講師を招聘し、研修を実施している。高齢者虐待防止や身体拘束についても学ぶ機会を確保し、職員の意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	事業所・法人・警察署・消防署・民間(製薬会社)等、多様な講師陣による研修計画を作成し、毎月定期的な研修が実施されており、特筆すべき点である。他事業所との職員交換研修や見学により、実践的な職員育成にも取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入しており、当事業所のボランティア室を会議の場として提供している。職員職場交換研修や行事での交流、他事業所見学等、積極的に交流を深めている。ネットワークづくりの成果を、地域全体のサービスの向上につなげていくことを目指しており、今後の展開が期待される。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居待機の段階より、ホーム行事への案内を行ったり、便りを届ける等の取り組みを行っている。入居当初は、ホームと自宅にて交互に生活してもらうこともあり、家族との連携を深めながら、個別の状況に柔軟に対応している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員の定着率が高く、入居者の方々との馴染みの関係が構築されている。年長者である入居者の方々との日常的な会話や、生活の様々な場面(漬物作り・編み物等)において、学ぶ事も多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 高野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用しており、家族の協力も得ながら生活歴等の把握に努めている。また日常の会話や行動、表情等から、その真意を汲み取るよう努めている。職員間での気づき等についても記録し、共有している。今後は、この充実した取り組みを、介護計画作成へとつなげて欲しい。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向をふまえ、担当者会議を開催し、職員や医療関係者の意見を参考にしながら、本人本位の介護計画となるよう努めている。		充実したアセスメントを更に活かし、生活歴や思い、職員の気づき等の集約から課題を抽出し、それぞれの個別性ある計画作成へとつなげることで、ケアの方針を関係者で共有し、具体化していくことが期待される。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月のモニタリングを実施し、一人ひとりの状況の把握及び必要に応じた見直しを行なっている。日々の細かい丁寧な個別の記録がなされており、職員の気づき等も情報共有ノートに記載し、見直しに活かしている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	状況に応じて、受診介助や家族の宿泊等に柔軟に対応している。入院時には、医療連携体制による看護師・医療機関との連携により、早期退院に向けた支援を行っている。併設するデイサービスとの充実した連携があり、日々の暮らしが、更に潤いあるものとなっている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の意向を大切に、かかりつけ医への受診を支援している。定期的な往診があり、また医療連携体制による看護師の役割りが明確になっており、医師との連携がスムーズになっている。母体医療法人との連携も含め、充実した支援体制があり、入居者・家族の安心となっている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム 高野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期ケアのあり方について、入居時に指針を示し、家族の同意を得ている。今後の課題として捉え、より詳しいマニュアルを作成し、家族・医療関係者との協議を重ねながら、方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	基本方針の中で、尊厳とプライバシーを守ることを謳っており、日々の申し送り時に確認する等、常に意識を持ったかわりとなるよう取り組んでいる。記録等の個人情報についても取り扱いに配慮し、持ち出し禁止や漏洩防止を徹底している。ボランティアに訪訪する方々にも、プライバシー保護に関する誓約書に署名してもらっている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ある程度のスケジュールはあるが、個別ケアを重視しており、一人ひとりの生活習慣やペース、その日の希望等を大切にした支援に努めている。レクリエーションへの参加も希望を確認し、自己決定を尊重した支援に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	平成21年5月より、ホームでの調理を開始している。メニュー作成から調理・配膳・後片付け(希望者が多く、順番で参加してもらっている。)までの一連の作業に、個々の力を発揮してもらっている。漬け物(白菜・高菜等)づくりや干し柿など、入居者の方々に教えてもらいながら、共に作っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本として週3回の入浴日の設定はあるが、希望や状況に合わせて柔軟に対応している。夜間の入浴希望にも出来るだけ対応するよう努めており、個別の入浴グッズ(石鹸・シャンプー等)を準備し、薔薇の花弁を浴槽に浮かべる等、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 高野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントの充実を、一人ひとりの力を発揮する場面づくりにつなげている。職歴や趣味を把握することで、調理や針仕事等、個別に活動する場所をつくり出しており、生活の活性化につながるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や個々の状況にあわせて、日常的に散歩に出掛けている。畑の手入れ・花壇の手入れ・中庭への水やり等を日課とされている方もおり、恵まれた周辺環境(広い敷地内も含む)の中、戸外に出る機会が多い。本年度はG・H専用車の配置があり、その日の個別の外出希望に対応できるよう体制を整えている。		外出レクリエーションの機会も充実しており、家族と連携する事も多い。外食レクリエーション(懐石料理等)や買い物レクリエーションも多様であり、入居者本位の企画力・実行力が伝わる。
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は施錠していない。見守りや職員同士の連携の徹底、習慣や行動傾向の把握等に努め、安全面に配慮しながら普通の暮らしを支援している。階下のデイサービス職員や地域住民との連携もあり、外出時には職員がさりげなく見守りながら、タイミングを見て声かけを行なっている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年3回の避難訓練を実施しており、うち1回は夜間を想定している。スプリンクラーが設置されており、マニュアルの作成及び避難ルートの確認・確保、備蓄品(毛布・水・食料・衣料品等)の準備により、非常時に備えている。消防署との連携に努め、実践的な訓練・確認に努めている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	今年度より、ホームでの調理となっている。状況に応じて、個別の調理形態(医師との相談により3段階のきざみ食等)に対応しており、全量摂取となるようメニューを工夫している。食事・水分摂取量を記録し、健康管理につなげている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## グループホーム 高野

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	各所に配置されている椅子やソファー、和室の掘炬燵等、それぞれが寛げる場所がある。廊下には畳敷きの長椅子があり、日向ぼっこしながら憩える場所となっている。ユニットにより雰囲気づくりが異なり、昭和のレトロな飾り付けや、行事等の思い出が掲示されており、工夫が見られる。調光や清潔保持に配慮された、快適な空間作りが行われている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	自宅より、使い慣れた家具や仏壇、電化製品が持ち込まれ、居心地よく、安心して過ごせる環境づくりが行われている。携帯電話を使用している方もおり、家族と自由に連絡している。周囲には長閑な田園風景が広がり、豊かな自然環境の中で、四季折々の彩りを眺める事が出来る。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			